

## 令和元年度第2回総合教育会議

- 1 日 時 令和元年12月18日(水曜日)  
午後3時30分～午後4時50分
- 2 場 所 富士見市役所 1階 第2委員会室
- 3 出席者 市長 星野 光弘  
教育長 山口 武士  
委員 五十嵐 洋太  
委員 小野寺 巧  
委員 簗輪 菊雄  
委員 渡部 利枝子
- 4 署名委員 委員 五十嵐 洋太  
委員 小野寺 巧
- 5 説明職員 教育部長 林 みどり  
教育部長 齊藤 宏  
教育政策課長 鈴木 誠  
学校教育課長 武田 圭介  
子育て支援課長 渋川 富美枝
- 6 事務局職員 総務部長 古屋 勝敏  
秘書広報課長 森園 幸則  
秘書広報課主任 仲澤 大気
- 7 傍聴者 0人
- 8 議 事  
(1) 特色のある幼児教育について

## ○星野市長

本日は、令和元年度の第2回の総合教育会議ということでご案内申し上げましたところ、皆様方にご出席を賜り、心から御礼申し上げます。また、教育委員会会議から継続しての会議になりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今日は、「特色のある幼児教育」とタイトルをつけさせていただきましての総合教育会議でございます。富士見市では、本年度より他の自治体に先駆けまして、「私立幼稚園特色のある幼児教育推進事業補助金」を創設させていただきました。本市におきましては、こども園へ移行された園もございしますが、9園ございます。この9園の皆様方のこれまでの園としての取組みや、また新たな子どもたちへの教育の取組みなどを私どもとしてしっかり支援をさせていただこうということで始めさせていただきました。こうした事業を通じて、富士見市内の幼稚園の魅力ある教育がお父様お母様に伝われば、保育所だけではなくて、幼稚園に通わせようという選択肢が広がるのではないかと考えています。

本日は、前回の総合教育会議で取り上げさせていただきましたSTEM教育の次に、我々が市長部局として打ち出しました本事業につきましてご説明をさせていただき、さらにご意見を頂戴したいと考えているところでございます。

独自性ある事業を行っている幼稚園や、新たなものにチャレンジしたい幼稚園を支援していくことによって、子どもたちが伸び伸びと育ち、富士見市で学んだ子どもたちはしっかりしていると言ってもらえるようにしたいと私は思っています。前回のSTEM教育と併せて、こうした事業を実施し、「確かな教育は富士見市で」という思いを具現化させていただきたいと、このように考えているところでございます。このあと、映像なども見ていただきまして、ご説明をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、昨日、内閣官房より発表がございまして、セルビア共和国のパラリンピックに出場される選手団の皆様を迎え、ユニバーサルデザインのまちづくりなどに取組んでいく、共生社会ホストタウンに登録されました。令和2年7月24日からオリンピックが開催されるということでセルビアのレスリングとハンドボールのチーム、そして8月25日からパラリンピックが開催されるということでセルビアのパラリンピアンとも交流することになったわけでございます。こちらにもぜひご注目をいただき、またご指導賜りたいと思っております。

そして7月7日に富士見市にトーチ・聖火リレーがやってきました。中谷奏空さんという本郷中学校の2年生の女子生徒がランナーに選ばれました。彼女は、JOCが主催します全国JOCジュニアオリンピックカップのアーティスティックスイミングの選手でして、今年も2位でございましたが、一昨年は優勝チームのメンバーであり、アスリートとして一生懸命頑張っている女の子でございます。この中谷さんが選ばれたということは、私どもといたしましては、学業や学校の環境なども含めて、スポーツを頑張る子どもたちのために、もっと支援をしたいと考えているところでございます。

2つ話題を提供させていただきましたが、子どもたちのための事業ということで、皆様からご意見を賜りたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

## ○森園秘書広報課長

ありがとうございました。本日は、説明員といたしまして林教育部長、それから齊藤教育部長、鈴木教育政策課長、武田学校教育課長、そして今回は、特色のある幼児教育ということで、担当課でございます渋川子育て支援課長が出席しておりますので、よろしくお願いいたします。それでは今後の進行につきましては星野市長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

## ○星野市長

それでは会議に移らせていただきます。本日の会議録署名委員を指名いたします。会議録署名委員には、五十嵐委員と小野寺委員を指名させていただきます。よろしくお願いいたします。

さて、ただいまご説明させていただきましたとおり、本日は、特色のある幼児教育ということで、議論をいただきたいと思います。まず、今年特色のある事業として指定された幼稚園のきたはら幼稚園さんと谷津幼稚園さんと2つの幼稚園をご紹介させていただきたいと思います。

1つは、きたはら幼稚園の「サーキット運動」ということで、子どもたちの運動機能をしっかり発達させようという事業で、この様子を動画で見ていただきたいと思います。もう1つは谷津幼稚園の「ぴかぴかday」ということで、子どもたちが自分達が使っている椅子や机、または教室の拭き掃除、それから庭の掃き掃除などを、積極的に子どもたち自身が取り組むという事業でございます。それでは、動画と写真の再生をお願いします。

～動画再生～

## ○星野市長

二つの幼稚園をご覧いただきましたが、谷津幼稚園は今までやっていない事業を、この機会に新たな事業として、また保護者の皆様にも参加していただける仕組みを作って取組まれたとのことです。

また、きたはら幼稚園につきましても、今まで取組んでいた内容に加え、今回新たに用具を購入してサーキットトレーニングを実施したことによって、子どもたちが機敏に動くようになり、あきらかにケガが減ったという報告をいただきました。

それでは、「私立幼稚園特色のある幼児教育推進事業補助金」の担当であります渋川子育て支援課長より説明をさせていただきます。

## ○渋川子育て支援課長

こんにちは。子育て支援課の渋川と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

説明に際しての資料でございますが、こちらの両面印刷の資料1枚と、広報富士見にてご説明させていただきます。

10月から幼児教育・保育無償化が始まりました。市内の各幼稚園におかれましても、無償化に関わる準備や事務に大変お忙しかったかと思えます。このような国全体での変化に伴い、保護者の幼児教育に対するニーズが高まっていると考えられます。理由の1つとしては、通常の教育時間を超える預かり保育に係る費用についても、無償化の対象となりますので、幼稚園の開園時間の範囲内でお子さんを預けてパート等へ働きに出ようとするお母さんがいらっしゃる、また、さらにもう一つとしては、保育所に預けている方の中にもお迎えの時間に間に合えば、幼稚園の教育を受けさせたいと思うお母さんがいらっしゃるのではないかと考えるからです。つまり、今後は保護者の関心が保育料の助成から、教育内容のさらなる充実に移っていくことが考えられます。そこで、お子さんの預け先の選択肢として、今まで以上に注目される幼稚園となるように、子どもにより良い教育の提供を目指してその園の特色を高めていくような取組みを行う幼稚園を応援するために、補助金を支給する事業として実施しております。

幼児教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培うものであり、子どもたちの健やかな成長にとって重要であると考えられます。このような時期にいろいろな体験をすることによって、情緒的・知的な発達や社会性を養い、将来、社会の中で生きていくための基礎となる部分を自然と身につけていくことができるのではないのでしょうか。

そのため、補助対象事業は、子どもが実際に参加し体験する事業であって、かつ既存事業を発展させる事業及び新規事業を対象としました。特に具体的な事業内容を指定せずに、その園独自の教育内容を考えていただきました。

補助対象経費は、事業に必要な経費であって、市の補助金ガイドラインにおいて認められる経費とし、例えば子どもに人気のキャラクターの園バスを導入する車両購入費などは対象外としました。

そして、今回この補助金額の決定方法ですが、幼稚園が申請した事業内容をプレゼンテーションしていただき、その事業内容を市及び教育委員会の職員で構成する評価委員会において評価し、各園の評価点数を決定することにより、金額を決めていく方式で実施しました。

評価委員会のメンバーは、市長部局と教育委員会の部課長8名で構成しております。

各園決定した評価点数が50点以上あれば補助対象の事業が認定され、その点数に応じて補助金額を決定しました。

評価方法については、5つの評価基準の「独自性・独創性を高める工夫を凝らしているか」、「園児の能力を伸ばすことができるか」、「園児が意欲的に事業に参加できる工夫があるか」、「事業における園児への指導体制が整っているか」、「事業の発展性・継続性があるか」をさらに10項目に細分化したものを評価ポイントとし、各委員の点数の平均点がその園の評価点数となります。

続いて、裏面をご覧ください。補助金額の決定についてですが、ご覧の計算式により、各園の評価点数を分子、認定事業の評価点数の合計点数を分母に、今年度の予算額をかけ、各補助金額を算出します。その金額と、実際にかかる補助対象経費の総額を比較し、少ない金額が補助金額として、決定しました。

次に補助金申請のスケジュールですが、3月に幼稚園にこの新しい補助制度の説明会を開催させていただき、5月に申請をしていただいた幼稚園に事業内容のプレゼンをしていただきました。そして、事業認定・補助金の決定をし、6月から事業が開始されました。年度末には事業完了を受けて、実績報告をしていただく予定です。

最後に今年度実施事業をご紹介します。詳しくは9月号の広報富士見をご覧ください。表紙は富士見みずほ幼稚園のバランスキューブを使ったサーキットトレーニング事業が一面に掲載されています。このように「私立幼稚園特色のある幼児教育推進事業補助金」についての記事が紙面の表紙を飾り、特集記事になりました。その特集記事をご覧くださいながらご紹介したいと思います。

今年度は6園の幼稚園において申請いただき、6園すべての園の事業が対象事業として認定されました。3園はサーキットトレーニングなどの園児の身体を鍛える事業、残り3園は食育、科学、清掃活動など様々な取組みが実施されています。

冒頭に動画で紹介させていただきましたきたはら幼稚園については、毎週水・木・金曜日の朝、園内のフットサルコートでハードルを使って、持久力などを養うため、一連の運動の繰り返しを行うサーキット運動を行っています。思いっきり運動のできる環境の中で、専任の体育講師の先生に教えていただきながら、楽しく運動ができ、さらにこの運動を始めてから、園児たちは集中して物事に取組むようになったそうです。

次はすわ幼稚園です。ダンスとヨガの先生を招き、楽しみながら体幹を鍛え、体力づくりができる取組みです。この成果は運動会で発表するとのことでした。園児たちにとっては楽しみながら、リズム感やひいては集中力も養っていけるものとなっているそうです。中学校の体育ではダンスの授業もありますので、だいぶ数年後ですが、活かされてくるのではないのでしょうか。

次はみずたに幼稚園です。サイエンスマジックショーを行い、小学校でやるような理科の実験を楽しく体験することで、興味をもち、なぜこうなるのだろうと考えることを体現させた取組みです。このような機会を小さいころから体験させることで、好奇心を育み、小中学校につながる「考える力」を養うことになるとのことでした。

次は富士見みずほ幼稚園です。こちらは表紙の写真でもありますが、毎月1～2回クッションマットのバランスキューブという四角いマットを使い、サーキットトレーニングを行うものです。柔らかい素材でできているので安全で、そのキューブを組み合わせて、いろいろな形にできるので、いろんなバリエーションの運動が楽しくでき、自然とバランス感覚や、持久力、跳躍力が身についていくとのことでした。

次は谷津幼稚園です。2週間に1回「ぴかぴかday」と言って、園児が教室や園庭をお掃除するという取組みです。みんなで一緒に楽しく、自分たちの使っている教室や園庭をきれいに掃除することは、小学校に入学してからの掃除はもちろん「自分たちの身の回りのこ

とは自分でできる」といった姿勢につながるものになるということです。将来的には地域の清掃活動にもつなげていきたいと考えていただいているようです。

最後は南畑幼稚園です。こちらは南畑幼稚園の自然豊かな地域性を活かし、農家の皆様と一緒に野菜を育て収穫し、それらの食材を使って、園児たちがカレーライス作りに挑戦しながら、食の大切さを学ぶ取組みです。さらに年末には餅つきも予定されており、事業に協力していただく地域の皆様との関わりから、昔ながらの体験や食にまつわる知識のお話も聞くことができ、食文化の継承や生きていく力を養うことにもつながると考え実施していただいております。

以上ご紹介させていただいた6園は、短い準備期間ながらもたくさんのアイデアを考えていただき、このような素晴らしい事業を実施していただいております。

各私立幼稚園の皆様は、子どもを取り巻く環境の変化に対応しながら、子どもたちの健やかな成長を願って、多様な教育活動に取り組んでいただいております。今年度実施された幼児教育・保育の無償化をきっかけに、これまでの教育カリキュラムに加え、今後の幼児教育の推進にさらなる取組みをされる園に、市として支援をすることで、各幼稚園の魅力がさらに向上し、本市の幼児教育の充実につなげていくことができると考えております。また、今回実施いただいた事業内容は、どの園も小学校入学してからのことを見据え、また、中学生になってからのことも見据えて考えていただいている事業でした。このように小学校からの義務教育を見据えた形で取り組んでいただいていることから、各園とも普段から小学校との連携を意識しているのではないかと考えます。

このように各園が魅力のある事業に取り組んでいただけることは、このような特色のある幼稚園に子どもを通わせたい、そして、それは本市の魅力を感じていただける入口、きっかけとなることにもつながると考えられますので、今年度から始まりましたこの事業をいろいろな意味で、また有効な施策として、実施してまいりたいと考えております。

## ○星野市長

ありがとうございます。ご意見をいただく前に、私からコメントさせていただきます。平成30年度から子ども未来部長や子育て支援課長とこの事業について協議を重ねてきました。これまで富士見市では就園奨励費補助金として幼稚園を支援してまいりました。幼稚園経営者の皆様はそれぞれ長年経営されている皆様であり、幼児教育に対しての大きな熱意を持っていらっしゃいます。そうした熱意のもと、幼稚園の特色を生かし、そして保護者の皆様に選んでいただける事業を、我々も支援させていただきたいと思っています。

今回は、特色のある事業を各園にプレゼンテーションしていただいて、これにかかる経費を補助金とする方式をとらせていただきました。上から目線ではないかというお言葉や、競争性をあおっているのではないかという話もいただきましたが、予算をしっかりとお配りするためには、こういった方式を取りたいということでご理解をいただきました。それからもう一つ、当初から子ども未来部の内部だけでなく、教育の一環であるということで、教育委員会の皆様のご意見を入れて作ってほしいということで指示させていただきました。評価基準についても様々な議論をさせていただき、本日お示しした10項目からなる評価基準を作成し、それに基づきながらポイントを掘み評価していただくということで取り組みました。

3点目は、富士見市には9園幼稚園がありますが、今回は6園の皆様に手を挙げていただきました。令和2年度に向けて、子育て支援課を通して幼稚園にヒアリングする中で、残りの3園につきましても、チャレンジしたいという意向を伺っております。

魅力ある幼稚園をしっかり支援していくことによって、子どもたちがこうした素晴らしい教育の中で成長し、小学校に進んでいくという環境を整えていきたいと考えおります。

それでは、委員の皆様から意見をお願いできればと思います。よろしく願いいたします。

## ○箕輪委員

今説明をお聞きしまして、予算の配分をプレゼンテーションの結果を踏まえて評価していくということは、私も必要だなと感じています。平等に分けたほうが良いという意見も当然あるかとは思いますが、スタート段階では今のシステムで良いと思います。いずれは、全体の質が上がってきた場合は、各園に平等にお配りするというのもありうるのかなとは思いますが、私学同士のよさを生かして切磋琢磨をしていくというのは良いと評価しました。

質問ですが、評価委員8名で、10項目それぞれ100点満点でもって、合計点数の合計800点になるということですが、評価の金額の決定について、分子に書いてある自園の評価点数はどのように計算されるのかということと、一つのサンプルでいいので、この点数で計算したら、配分額が何十万円になったということを示せば、教えていただきたいと思えます。

### ○渋谷子育て支援課長

まずは、先ほど申し上げたとおり、10項目があって、それに当てはまるか当てはまらないかで、1を入れていきます。それが1から10までの項目の中で、1が8個つけば80点となります。それが、8委員分ありますので、それを足して、8で割った数その園の点数となります。例えば、80点、90点、90点、30点、90点、70点、70点、90点となりますと、合計が610点でございますので、8で割った76.25というのが、その園の点数となり、分子になります。

分母につきましては、各園の点数をトータルしたものになります。483.75を合計点数とすると、76.25を483.75で割り、今年度の予算が270万円を掛けますと、425,581円がこの点数に対する金額となります。実際にかかる経費を比較し、少ないほうの金額が補助金額となります。

### ○箕輪委員

この270万円の予算総額を超えることはないということですね。

### ○渋谷子育て支援課長

そのようになります。

### ○箕輪委員

広報富士見の表紙に取り上げられた園や、中の特集のページでも、多少スペースの大小があります。この紙面編集に関しては、採点との関係はあつたりするのでしょうか。

### ○星野市長

後ほど、秘書広報課長より紙面方針について説明させていただきますが、私は当初から、この事業が進み出したら広報として取り上げるべきだと考えていました。ホームページはもとより、広報は多くの市民の皆様に見ていただいていると思います。興味を持って見ていただくためには、表紙や特集記事で取り上げることは非常に重要なことでもあります。確かに、写真の大小により、いろいろとお考えが後から付加されることもあろうかとは思いますが、こちら側の都合にもなってしまいますが、写真の見栄えもありますので、そういうふうにも思う方もいると思いますが、今回の事業をクローズアップした以上、広報として取り上げたいと思っていました。

広報が市の広報として、偏ることがないようにということはもちろん理解しておりますが、市の中でキラリと光るものは、しっかりと広報で紹介したいと思っております。

### ○森園秘書広報課長

今の広報富士見は、PRやシティセールスの観点を特に意識して作成しています。子どもたちの顔写真を使う場合には、どの写真を使っていいか許可を取する必要があります。許可が取れた写真の中から表紙写真を選びますが、中身を読んでいただけるかどうかは、表紙の写

真が最も重要だと考えています。それぞれの園をまとめて掲載することも可能ですが、インパクトのある表紙とするためには、どこかの園をクローズアップすることはやむを得ないと認識しております。

### ○箕輪委員

2017年に国立教育政策研究所で幼児教育研究センターというのを初めてつくったと聞いております。今の話の中で、保育も含めて幼児教育の質を高めていくという方向性を聞いたときに、市としてはどこが担当されるのでしょうか。実際にこれからの教育の中で、教育の質そのものを点検することなども必要になってくると思うのですが、どこが担われていくのでしょうか。

### ○星野市長

この補助金については、現在は子育て支援課が担当となっています。しかしながら、今ご指摘のあった中身については、馴染まないと思っております。今回評価委員会の中に、教育委員会の皆様にも入っていただいたのは、中身については教育の専門家の皆様から、ご評価やアドバイスをいただくことが大事だと考えているからです。

### ○山口教育長

内容については、教育分野ですから、教育委員会が所管する自治体も数多くあると承知しておりますので、このあたりの連携をさらにうまくいくようにすることは大事だと考えています。今も就学前の子育てのご相談であっても、教育相談室で受け付けていますし、早い段階からみずほ学園や健康増進センター、子ども未来応援センターと連携しています。幼児教育の中身についての指導や支援をどうするかは考える時期にあるだろうなと思っております。もう一つは、幼児教育と保育の狭間がどんどんなくなってきているので、子ども未来部と教育委員会がどういう形で接続、または連携していくのか探る時期にあると考えています。

### ○小野寺委員

子どもたちの健全な成長ということを考えたときに、家庭教育・幼児教育・学校教育それぞれ力を発揮し、役割を果たしていくことが大事だと考えています。この富士見市の取組みについては、今までは学校教育には十分力を入れていただいておりますが、今年度からこのように幼児教育にも力を入れていくということは、素晴らしい取組みだと感じました。3つの園が今年度は不参加だったことは残念ですが、来年度以降ぜひ、すべての園が参加して、競争しながら、そして情報交換しながら、それぞれの園の教育を充実させていただきたいと思っております。

先日、ふじみ野小学校でSTEM教育の一環ということで、コンピュータを使ったロボットのプログラミング教育を見せていただきました。子どもたちも非常に楽しそうでしたし、教えていただいた大学の先生も一生懸命に教えてくださり、保護者の方も補助に入っていたりと、とてもいい授業でしたので、今後が期待できるなと思っております。

学校で行われる事業であれば、私たちも見に行ったり、いろいろなお話を聞いたりすることができますが、この補助金事業について、教育委員として、あるいは教育委員会として、どのように関わっていけばいいのかなと考えながら、話を聞いておりました。小学校と幼稚園との連携という視点でいくと、この事業をきっかけに、小学校と幼稚園の連携が進む取組みにつながればいいなと思っております。ますます充実させて進めていただければと思います。

### ○渡部委員

それぞれの幼稚園で、運動を主体にしているところや、理科の実験をしている幼稚園もあります。これを同じくくりの中で評価することは難しいと思います。補助金に関しても、例えばハードルを買うお金、先生たちへの謝礼金など、かかるお金が違う中、ポイント制でそれぞれ補助金をだすというのは、難しいと感じています。

それぞれの幼稚園の取組みは素晴らしいと思いますが、補助金をどうやって出すかの判断は難しいかなと思います。

#### ○星野市長

ヒアリングの報告を受けましたが、今回参加していただけなかった園は、そういう思いもあったのではないかと考えています。それがすべてではなく、準備期間が足りなかったという意見もいただいています。ご指摘いただいたところは、考えていかなければいけないと思っております。

#### ○五十嵐委員

毎年新しい事業として、申請していかなければならないのでしょうか。

#### ○渋川子育て支援課長

特色を高めていくということをお目としておりますので、継続的にやっていただくことを主としております。

#### ○五十嵐委員

今回補助金額が内容によってばらつきがあったと思いますが、十分足りていたのでしょうか。

#### ○渋川子育て支援課長

どうしても評価して補助金を支出していますので、事業費としてすべて賄える園もありますが、持ち出しを加えてやらなければならない園もありました。

#### ○渡部委員

例えば、お掃除については、ぞうきんとバケツがあればいいと思いますが、サーキット運動でハードルを買うということと、同じ土台で評価することは難しいと思います。

#### ○渋川子育て支援課長

今回は特色や独自性を評価させていただくということでやらせていただきました。確かに、中身をそれぞれ見ると、消耗品であったり、備品であったり、委託であったりと同じ土俵で評価できないという点もあると思いますが、一つの事業がどれだけ素晴らしいものなのかということ点数化させてもらい、金額を決めるというやり方をとらせていただきました。

#### ○星野市長

この事業については、予算化するためには何度も協議をさせていただきました。新規事業、継続的な事業という部分では、例えば南畑幼稚園は鼓笛隊を長いこと続けていらっしやいます。こういったものにもっと力を入れたいというご要望もあったのですが、当初私たちは新しい事業の取組みというスタンスを強く打ち出したものですから、今回は南畑の地域柄や特色を生かした食育の取組みをしていただきました。

令和2年度の事業として、基本的なスタンスは変わりませんが、変えるべきところは変えていき、長年継続してきた伝統ある幼稚園の事業にも光をあてていくようなマイナーチェンジをしていきたいと思っています。



これからの予算ですので、この段階では決定はできませんが、担当課や財政部門でも協議しながら、変えるべきところは変えていかなければならないと、1年目を経過して感じたところです。

### ○渋川子育て支援課長

今までは幼稚園の就園奨励費という国の補助金制度で、所得に応じて補助金を支出するという事業しかなかったのですが、この事業を通じて各園を回らせていただき、子育て支援課としても幼稚園とつながりを持つことができました。園長先生と話したときに、「広報に載せていただいたことで、富士見市にはこういう幼稚園があることを知っていただく良いきっかけになった」と話されていました。引き続き、幼稚園の皆様に補助制度を活用していただくように努力してまいります。

### ○山口教育長

制度や補助金の出し方については、私も途中経過で相談を受けましたが、なかなかこれが良いというのは難しさがあり、試行錯誤をしながらというのはやむを得ないと思っています。本来の目的から言えば、補助金要綱の趣旨にあるように、富士見市内の子どもたちが多く通う、私立幼稚園の教育を充実させることが、その次の段階である小学校・中学校教育がより充実していくスタートにつながっていくため、大きく意味のあるものだと感じていますし、教育委員会としても期待しているところでございます。

富士見市の小学校・中学校の9年間の学力変化は、学年を追うごとに着実に評価は上がっています。体力の面でも、小学校1年生の段階では、全国や県の体力の平均より下回っているものが多いのですが、卒業までに全国や県の平均を上回るものが増えていきます。つまり、学校教育の9年間で着実に子どもを伸ばせていると思います。今までの幼保教育が劣っているとは思いませんが、幼保の教育がより一層充実していくことによって、さらに子どもたちを伸ばせるのではないかと感じています。

もう一つは、例えば、鉄棒の逆上がりは幼児の段階が一番教えやすく、学年が上がるにつれ難しくなっていきます。伸びる時期というのは、分野によって違いますが、幼児の段階のうち身に着けるべきことというのは、発達段階の中には必ずあります。幼児教育の段階で身に着けておくことによって、それをもとにその後の成長にも大きく関わってくると思いますので、この事業は発展性があるものだと考えています。

### ○渡部委員

今回参加しなかった3園の、今後の参加の見通しはどうか。

### ○渋川子育て支援課長

来年度予算の関係もありますので、秋口ぐらいにお声がけさせていただいて、次はやってみようかなという雰囲気を感じています。今年度の事業については、説明期間も短く、内容も初めての試みだったので、なかなか手を挙げづらかったのかなとっております。また来年度に向けて努力を続けていきたいと思っております。

### ○箕輪委員

評価委員8名の方は年度ごとに交代することはありえますか。

### ○星野市長

人事で変わることはあります。

### ○箕輪委員

評価委員へのお願いになりますが、教育長から先ほどお話があったように、幼児教育でやるべきことはなんなのかということ、しっかりと評価委員の皆様にも研究していただき、評価に活かしていただきたいと思います。

### ○星野市長

STEM教育や幼児教育については、本質的には子どもたちのために、新たな単元が入ってくることに對する準備や、場を早い段階で提供したいというところが一義的なところで、さらには、富士見市の教育にける姿勢を、富士見市に住んでいる保護者の方にはもちろんのこと、それ以外の保護者の皆様にも知っていただき、富士見市を選んでいただく良い材料として捉えていただくためにも、しっかりとアプローチしていきたいと考えています。したがって、今後ももちろん、さらに良い制度にしていき、違う視点や違う方法論なども踏まえて、私自身の教育にける考え方を、まだまだ深みを持たせていきたいと考えていますので、ぜひ教育委員の皆様方からも事業のアイデアなども頂戴できればと思います。

それでは、他にご意見がなければ閉会とさせていただきます。いただきましたご意見を今後の事業運営に活かしていきたいと思ひます。貴重な意見交換をいただきまして、本当にありがとうございました。